

市長賞

賢明学院小学校 五年

秋山 未野里

寄りそえる人に

冬休みにこたつに入り、あるニュースを見ていた時の事だ。それは、初め何を言っているのか、よくわからなかったから、お母さんに質問した事を覚えている。

「グリ下って何？」

私は聞いた。

「この前、なんばに行った時、グリコの大きな看板があったでしょ、あのかん板の所にある橋の下のことだよ。」

とお母さんは言った。

ニュースではグリ下に集まる中高生に、インタビューをしていた。冬休みだから、そこで友達と遊んでいるのかなと思っていたけれど、聞いていくと違った。インタビューでは、一人の女の子が、

「お父さん、アル中で私にビール缶を投げってきた。」

その子は、家出をしてきたということだった。他の子供達にインタビューをしていくと、同じように家を出てきて、帰る気持ちがないということだった。私は、こんな寒い日にグリ下でずっと過

ごしているという事にびっくりした。他にも、元々友達同士で集まっていたわけではなく、皆、SNSで呼びかけて集まった初対面の人達であるということや、お酒の缶が置いていたり、たばこの吸いがらがあったり、びっくりすることだらけだった。お母さんに、

「最悪やな。こんなところに集まって何が楽しいんやろか。」

私は言ったけれど、お母さんは、

「よく聞くと、色々理由があるみたいだよ。」

と言って、ニュースを見ていた。

私はその時は、自分勝手に家出をしている子ばかりなのだろうと思っていた。でも、実際は違っていた。学校でいじめられて不登校になった子、家でぎゃく待を受けている子だった。そして、私が気付いた事は、グリ下にいる子達は、皆、相談が出来る友達、親、先生が身近にいないということだった。だからといって、たばこを吸ったり、お酒を飲んだりする事は未成年だから良くないけれど。次第に私は、グリ下にいる子達の理由がわかってきた。

ニュースでは、グリ下でワイワイさわいでいる様子が放送されているけれど、私は、なぜか楽しそうに思えなかった。むしろ、皆、居場所がなく集まり、いやな事を忘れたいからではないかなと思えてきた。そう思ったのは、一人の女の子が言っていた言葉が、私の心につきささったからだ。

「私、本当はちゃんとしたいねん。」

この言葉だ。きっとこれは、本音だと思う。他の子もそう思っているけれど、助けてくれる人も相談出来る人もいないから、どうしたらいいのかわからなくて、同じ様な悩みをかかえた子達がグリ下に集まったのだと思う。

では、どうしたらいいのだろう。と、考えた。私は学校で困った時は、まず、担任の先生に相談に行く。今までも意地悪された時は、先生に相談したら、先生はその子達と話し合いをして、助けてくれた。学校の事で悩んだ時には、お母さんやおばあちゃんにも悩みを相談した。解決には、私の経験から、相談出来る大人が必要だと思う。私は学校や習い事では、楽しく過ごせる友達がいる。たとえ学校がいやでも、楽しく過ごせる時間や良き友達が身近にいたら、グリ下に行かなくてもすむだろう。何より、こ独にならない様に過ごす事が大事だと思う。グリ下にいると、悪い大人に連れていかれた話もあった。こ独だと間違いにも気付かない事も多いので、事件にまきこまれている。

地域でも非行に走らないためには、どうすればいいのか考えた方がいい。私が住んでいるマンションでは、管理人さん、掃除のおばさん、マンションの子達はみんな仲良しだ。私が学校から帰ってきたら、管理人さんや掃除のおばさんが、

「みのりちゃん、おかえり。」

と、声をかけてくれる。私は小さい頃から話もよくしている。管理人さんは、何か悪い事をする子がいたら注意もする。子供達と一緒に花だんに種をまいたり、掃除のおばさんが、休けいしている集會室で、宿題をしている子もいる。近所の人も声をかけてくれる。お父さん、お母さんも近所の人と話をするから、自然とマンション内のふん囲気も良いのだと思う。グリ下の子達も、このようなかん境が必要だ。人とのつながりも社会全体で考え、明るい地域作りをしていけるといいな。グリ下の子供達の様に、こ独にならないかん境が出来れば安心だ。グリ下の子供達を、補導して家に帰すだけでは、解決にはならない。家がいやで家出しているのだから、またグリ下に戻ってきてしまう。

私が今出来る事は、こ独な子に声をかけて支える事、話を聞いてあげることだと思う。そういう子がグリ下に行かないために。

